

鬼瓦のルーツを尋ねて韓国へ ⑨

新羅の古都・慶州へ

前橋市 富山 弘毅

百済の史跡をたどる旅から 2 週間後の 2004 年 4 月中旬、新羅の都だった慶州への旅に出かけました。同じくワールド航空旅行サービスのツアーで、百済と新羅を対にした企画でした。

こんどは、妻は参加しませんでした。多分、どこへ行っても屋根の上ばかり見つけて「鬼がいた」とか「いないな」とか言うばかりの夫との旅に、嫌気がさしたのでしょう。私は、といえば、わき目もふらずに鬼瓦ばかり捜し求める「気楽で緊張する」外国旅行でした。

まずソウルの王宮と博物館



ソウル 昌徳宮 敦化門 衛兵交代

1 日目、成田からソウルへ。

青瓦台をチラリと見ながら、朝鮮王朝の正宮で復元された景福宮へ行きました。

ここでは、興礼門前での衛兵交代を見ました。勤政殿、奥の思政殿、左側の千秋殿、右側の万春殿、さらにすすんで宴席が催された慶会楼などを回りましたが、世宗の学術研究所・千秋殿で鬼を発見、幸先の良いスタートでした。

康寧殿は王の、交泰殿は王妃の、プライベート空間なので威圧するようなものは作らないという思想で、大きな建物なのに



ソウル 景福宮 千秋殿 (手前は龍)

大棟がないといいます。破風には 中国で鬼龍子(きりゅうし)と呼ばれる飾り瓦の 1 種、三蔵法師とそのお供の一行が載っていました。



ソウル 景福宮 交泰殿 (鬼龍子・三蔵法師一行)

世界遺産の宗廟では、朝鮮王朝歴代の王と王妃の位牌を安置してある正殿や永寧殿を見学しました。ツアーのグループの先を歩いたり脇にそれたりしながら、懸命に探し回りましたが、鬼瓦はひとつもありませんでした。期待をちょっとそがれた気分の私を、満開の桜が慰めてくれました。

夕刻には混雑する南大門市場を散策しましたが、夕食後とあって買い食いする気にもならず、一回り歩いただけでした。

夕食のレストランに韓国の旅行会社の社長が来たので、鬼瓦探しをしていると自己紹介しました。すると、その社長は「通度寺の学芸員は、鬼ではなく水を支配する龍だと断言している」と言いました。私は手帳にメモはしましたが、この時にはさほど気にしませんでした。

2日目。当時のソウルの国立中央博物館へ。みごとな金銅半跏思惟像など三国時代の仏像や、青磁、白磁の数々はすばらしく魅力的ですが、私にとっては鬼瓦が一番。

日本人・井内（いうち）功氏の寄贈した高麗、百濟、新羅、高句麗、伽耶などの鬼瓦の数々が展示されている部屋を探し出し、本当に堪能しました。



ソウル 国立博物館
井内功寄贈 鬼面瓦
統一新羅



ソウル 国立博物館
井内功寄贈 高麗
瓦

鬼瓦の説明札には「鬼面瓦」、鬼面の軒丸瓦には「鬼面文円瓦当」などと表示されていました。（この表示が、数年後には変えられるのです！）



ソウル 国立博物館
井内功寄贈
鬼面瓦
統一新羅



ソウル 国立博物館
二階展示室
鬼面瓦
統一新羅

一般展示室にも、高句麗（5～6世紀）の鬼面文円瓦当、統一新羅時代（7～8世紀）の鴟尾や釉薬を施した鬼面瓦など、宝物のような逸品に私は大満足でした。



ソウル 国立博物館
二階展示室 鬼面瓦
統一新羅



ソウル国立博物館
二階展示室 鬼面文丸瓦
高句麗

時間があれば、もっとゆっくり眺め続けていたいのに。もう一回、個人旅行でここに来よう、と思いました。

世界遺産の景福宮では、正殿の仁政殿の入口・仁政門に続く回廊に鬼がいましたし、大棟には1オニが鬼面、2オニが龍面の瓦が載っていました。

ソウル 昌徳宮 仁政門回廊



政務を行った宣政殿、王が生活していた大造殿、うっそうとした緑が美しい庭園、秘苑などを、みんなは楽しんでいたようですが、私は鬼探しに夢中でした。

ガイドに聞くと「龍は火よけ、鬼は魔よけ」「鬼はおばけ、怖くない、いっしょに遊ぶ、いたずら半分、と言う感じ」と言いました。「鬼」は「トッケビ」なのです。

水原華城から慶州へ

バスでソウルを離れて、世界遺産の水原華城を歩き、名物の骨付きカルビ、カルビスープを味わったあと、高速道路で大田、大邱を抜けて、「新羅千年の都・慶州（キョンジュ）」に着いたのは夜でした。

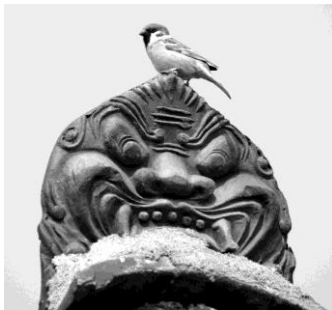
3日目。古都・慶州の観光です。

ツアーのコースは、私がすでに前々回歩いた石窟庵、仏国寺と、慶州駅近くの市場歩きなどでしたから、まさに単独行動のチャンスでした。私は前夜、フロントで「日本語が少しは出来るタクシー」を半日80,000ウォン（当時、約8,500円）で予約。市内の地図を入手して寺をマークし、回る順を考えていました。

タクシーで古寺めぐり

朝9時前にタクシーで出発。外国で初めての一人旅でしたが、ほんの少しだけでも日本語がわかる運転手さんがついてくれたので心強く感じました。

まっさきに、仏塔寺本堂の大棟で栗型鬼瓦を発見しました。



慶州 仏塔寺 本堂 大棟北

1977年建設の統一殿は、立派な鬼面瓦をいくつも掲げていて（ほとんど同范ですが）気に入りました。



慶州 統一殿
(左) 全景
(下) 興国門 北東



私は南北朝鮮の統一を祈りつつ、ここの鬼瓦のひとつをその後ずっと名刺に印刷しています。

菩提寺には鬼のほか「新羅スマイル＝千年のほほえみ」と呼ばれる人面文円瓦があり、レプリカが道標になっていました。エキスポ1994のトレードマークになったものです。その本物には、翌日、国立新羅美術館新館でお目にかかりました。



菩提寺入口 新羅スマイル＝千年のほほえみ
(人面文円瓦のレプリカ)

王龍庵にも個人宅の門にも、塀にも同范の鬼がいました。お屋敷のような高級料亭「瑤石宮」の中庭の壁には大きな鬼のデザインのモニュメントがありました。



料亭・瑤石宮中庭の鬼のモニュメント前で

運転手の話では、この料亭でのキーセン・パーティに中曽根首相、安倍首相らが来たことが宣伝されているといいます。私たちの翌日の夕食・韓定食もここでした。丘巻は望月寺で、山門にも大雄殿にも、

もはやボロボロで退役寸前のような手づくりの鬼瓦が、がんばっていました。



慶州 望月寺 山門



望月寺 大雄殿 北東



望月寺 大雄殿
北東降り鬼

でも、望月寺のことを翌日、慶州文化院で講義してくれた李正美・東国大学校観光学科講師に質問したら、「その寺は新しい寺ではないでしょうか。インターネットにもっていません。瓦は他寺のものを拾ってきて載せることもありますし」との答えでした。

「新しい」どころか廃寺かと思まがうほどの古寺に見えましたが、新しい・古いは相対的表現ですから、新羅時代のものではないという意味だったのでしょう。

隣の三仏寺には、参詣者はたくさんいましたが鬼はいませんでした。

街中に戻って、芬皇寺には縦長の鬼板が鐘楼にありました。

歴史遺産の白眉・雁鴨池

新羅による半島統一を祝って674年に造られた雁鴨池（안압지アナプチ）の出土

品は博物館別館・雁鴨池館で翌日、じっくり見るのですが、現地の復元建物には立派な鬼瓦が存在感を示していました。



雁鴨池
（上）復元建物 No. 1 全景
（左）復元建物 No. 1 南西
鬼面文鬼瓦

昼食は運転手さんといっしょに食べました。私が払うからどこへでも連れて行ってくださいと頼んだら、運転手仲間と市職員ばかりが集まるという、あまり清潔とはいえない、小さな食堂へ案内されました。

豆腐の味噌汁つきのイワシ煮定食に、ナムルなどはおかわり自由で、1人4,000ウォン（約430円）でした。運転手さんは、毎日3食ここで食べる、自宅ではほとんど食べないと言っていましたから、よほど気に入っているのでしょうか。私にとっては「とてもうまい店」とは感じられませんが、お仕着せのツアーではのぞけない庶民の暮らしの一端を味わえました。

午後1時にタクシーを降りて、ツアーの一行に加わりました。朝鮮王朝時代の支配階級・両班の李氏と孫氏が築いた村という良洞古村を散策、伝統家屋や遺跡などを見学しましたが、鬼は不在でした。

大ホームランを飛ばすのは、翌日のことです。（つづく）